

国宝 鑑真和上展

The Exhibition of National Treasure Ganjinwajo

2006年6月24日〔土〕–**8月20日**〔日〕

12年間にわたり6度も渡航を試み、辛苦の末、753年ついに来日を遂げた唐の高僧、鑑真和上（がんじんわじょう）。国境を越えて仏教の戒律を教え広めるといふ、その崇高な志と不屈の精神は、今なお人々の心を深く動かしてやみません。本展では、日本最古の肖像彫刻であり、在りし日の和上の姿を鮮明に伝える国宝・鑑真和上坐像をはじめ、はるか天平の時代より唐招提寺に伝えられてきた彫刻や絵画、工芸品などの至宝の数々を公開します。鑑真和上の偉業を偲びつつ、唐との交流を背景に華ひらいた仏教美術の粋を、どうぞご堪能ください。

出品リスト

唐招提寺の歴史

唐招提寺は律宗の総本山である。759年、鑑真和上が新田部親王の旧宅を朝廷から賜って建てた、戒律を学ぶ私的な律院「唐律招提」がその始まりである。当初は簡素だった建物も、やがて鑑真和上に帰依した天皇や貴族などからの寄進によって充実していき、平安時代末には東大寺、薬師寺などとならんで南都（奈良）でも屈指の寺となった。その後、一時的に寺勢がおとろえることもあったが、鎌倉時代には戒律復興の拠点となり、江戸時代にも五代将軍徳川綱吉の母、桂昌院の帰依を得るなど、律宗の中心としてゆるぎのない地位を築き現在に至っている。

作品名	時代	指定	出品番号
四天王立像 <small>してんのうりゅうぞう</small> 広目天	奈良時代	国宝	12
勅額 <small>ちよくがく</small>	奈良時代	重要文化財	7
四天王立像 <small>してんのうりゅうぞう</small> 多聞天	奈良時代	国宝	13

唐招提寺の絵画

「東征伝絵巻」は、鑑真和上がたび重なる失敗の末に来日し、唐招提寺を開創して没するまでの生涯を描いており、鎌倉に極楽寺を開いた忍性が、1269年に運行に描かせたもの。鎌倉時代の鑑真和上に対する崇拜を物語る作品として重要である。また、仏画では、平安時代後期に制作された珍しい図様による重厚な「大威徳明王」、南宋から伝わった作品をもとにした「十六羅漢像」、平安時代以来の伝統的表現による「法華曼荼羅」など、日本の絵画史上で興味深い作品が多い。

作品名	時代	指定	出品番号	
唐招提寺伽藍図 <small>とうしょうだいじがらんず</small>	江戸時代		6	
両界曼荼羅 <small>りょうかいまんだら</small>	二幅 鎌倉時代		19	
薬師十二神将像 <small>やくしじゅうにしんしょうぞう</small>	鎌倉時代		21	
五大尊像 <small>ごだいそんぞう</small>	五幅 南北朝時代		22	
大威徳明王像 <small>だいいとくみょうおうぞう</small>	※1	平安後期	重要文化財	23
法華曼荼羅 <small>ほっけまんだら</small>	※2	鎌倉時代	重要文化財	20
十六羅漢像 <small>じゅうろくらかんぞう</small>	※3	十六面 鎌倉時代	重要文化財	24

- ※1　前期（6月24日～7月23日）のみ展示
- ※2　後期（7月25日～8月20日）のみ展示
- ※3　前期八面、後期八面ずつ展示

唐招提寺の書跡

唐招提寺には写経や古文書が多数所蔵されている。鎌倉時代に唐招提寺を復興した覚盛 上人がのこした写経は「四分戒本」など多数あり、戒律復興、仏法興隆、衆生利益の願いをこめた特別な写経であったと考えられている。また、鑑真和上がもたらしたと伝えられる「四分律行事鈔」（律を学ぶ者の必読書のひとつ）もある。「戒律伝來記」は戒律が日本に伝わるまでの経緯を記したもので、現存する唯一の写本である。

作品名	時代	指定	出品番号
老母六英経 <small>らうもろくえいききょう</small>	奈良時代	重要文化財	26
大雲経請雨品 第六十四 <small>だいうんぎょうしょううほん</small>	奈良時代		27
瑜伽師地論 卷第三十八 <small>ゆがしじろん</small>	奈良時代	重要文化財	47
大毘盧遮那成仏神変加持经 <small>だいびるしゃなじょうぶつじんべんかじききょう</small>	平安時代	重要文化財	29
法華経 <small>ほけききょう</small>	八卷 平安時代		30
戒律伝來記 上卷 <small>かいりつでんらいき</small>	平安時代	重要文化財	43
四分律行事鈔 <small>しぶんりつぎょうじしきょう</small>	平安時代	重要文化財	44
唐招提寺文書（天の巻）（地の巻）※4	二卷 奈良～平安時代	重要文化財	52
釈迦念仏会願文并諷誦文 <small>しゃかねんぶつえがんもんならびにぶじゅもん</small>	※5	二卷 鎌倉時代	53

- ※4　前期（6月24日～7月23日）は天の巻、後期（7月25日～8月20日）は地の巻を展示
- ※5　前期（6月24日～7月23日）は願文、後期（7月25日～8月20日）は諷誦文を展示

唐招提寺の工芸

唐招提寺の工芸品は、奈良時代から鎌倉時代のもものが中心である。奈良時代の工芸品では、鑑真和上が唐からもたらした「白瑠璃舍利壺」（本展出品作は複製）と「方円彩糸花網」がある。「白瑠璃舍利壺」は仏舍利三千粒を納めるもので、数少ない唐代のガラス工芸である。また、「方円彩糸花網」はそれを包むため絹の色糸で編み上げたレースである。平安時代の工芸品では、鑑真和上がもたらした舍利を納めるものとしての「金亀舍利塔」が知られ、亀の背に宝塔をのせた当時の形式によるものである。また、鎌倉時代の「日供舍利塔」は、少量の舍利をこれに分けて毎日拝むもので、火災にかこまれた宝珠の形をしている。

鑑真和上と唐招提寺

鑑真和上は688年、唐の揚州に生を受けた。父に従って参詣した揚州大雲寺で仏像に心ひかれ、14才で出家。その後、律の勉強に励み、やがて江南一の授戒の大師として中国仏教界に名を馳せた。その鑑真和上が、日本の招請に応じて渡日の志を立てたのは55歳のとき。5度にもわたる渡航失敗の末、ついに日本の土を踏んだのは、実にそれから12年目のことであった。759年の創建以来、唐招提寺は多くの僧に戒律を学ぶ場を与え、鑑真和上の精神を受け継ぎ伝える聖地として、人々の尊崇を受け続けている。乾漆の技法による「鑑真和上坐像」（奈良時代）は、日本美術史の上で肖像彫刻の最高傑作として知られている。

作品名	時代	指定	出品番号
華盤 <small>けほん</small>	奈良時代	重要文化財	16
香水壶 <small>こうずいつぼ</small>	鎌倉時代	重要文化財	17
押出仏 <small>おしだしぶつ</small>	白鳳～奈良時代	重要文化財	40
押出仏 <small>おしだしぶつ</small>			41
薬師如来立像 <small>やくしにょらいりゅうぞう</small>	白鳳～奈良時代	重要文化財	41-1
如来立像 <small>にょらいりゅうぞう</small>	白鳳～奈良時代	重要文化財	41-2
如来坐像 <small>にょらいざぞう</small>	白鳳～奈良時代	重要文化財	41-3

作品名	時代	指定	出品番号	
吉祥天立像 <small>きちじょうてんりゅうぞう</small>	白鳳～奈良時代	重要文化財	41-4	
十一面観音立像 <small>じゅういちめんかんのんりゅうぞう</small>	白鳳～奈良時代	重要文化財	41-5	
東征伝絵巻（三巻・四巻） <small>とうせいでん みぎ</small>	二巻 鎌倉時代	重要文化財	14	
東征伝（賢位撰） <small>とうせいでん けんいせん</small>	二帖 室町時代		48	
舍利容器 <small>しゃりようき</small>			3	
金亀舍利塔 <small>きんきしやりとう</small>	平安時代	国宝	3-1	
白瑠璃舍利壺（鑑真和上請來舍利納入）複製	唐時代		3-2	
方円彩糸花網 <small>ほうえんさいししかもう</small>	※6	平安時代	国宝	3-3
日供舍利塔（火焰宝珠形舍利容器） <small>にくしやりとう かえんほうじゅがたしやりようき</small>	鎌倉時代	重要文化財	5	
鑑真和上坐像 <small>かんじんわじょうざぞう</small>	奈良時代	国宝	1	

- ※6　後期（7月25日～8月20日）は複製を展示

唐招提寺の彫刻

唐招提寺には、「鑑真和上坐像」のほかにも奈良時代を中心に多数のすぐれた仏像がのこされている。木彫による「梵天・帝釈天立像」や本展覧会入口に展示した「四天王立像」（本展では4体のうち広目天、多聞天の2点出品）は、中国風の特徴を持ち、鑑真和上に伴って来た唐の工人が関与したと考えられている。また、平安時代初期の「如来形立像」は流麗な衣紋により“唐招提寺のトルソー”として名高い。

作品名	時代	指定	出品番号
如来形立像 <small>にょらいぎようりゅうぞう</small>	平安時代	重要文化財	35
衆宝王菩薩立像 <small>しゅうほうおうぼさつりゅうぞう</small>	奈良時代	重要文化財	33
獅子吼菩薩立像 <small>ししくほさつりゅうぞう</small>	奈良時代	重要文化財	34
四天王立像 持国天（講堂所在） <small>してんのうりゅうぞう じこくてん</small>	奈良～平安時代	重要文化財	36
梵天立像 <small>ほんてんりゅうぞう</small>	奈良時代	国宝	8
薬師如来立像 <small>やくしにょらいりゅうぞう</small>	奈良時代	重要文化財	31
帝釈天立像 <small>たいしゃくてんりゅうぞう</small>	奈良時代	国宝	9
四天王立像 増長天（講堂所在） <small>してんのうりゅうぞう ぞうちょうてん</small>	奈良～平安時代	重要文化財	37
仏頭 <small>ぶつとう</small>	奈良時代	重要文化財	38
菩薩頭 <small>ぼさつとう</small>	奈良時代	重要文化財	39

中世の戒律復興

鎌倉時代には、法然（浄土宗）、親鸞（浄土真宗）、道元（曹洞宗）、日蓮（日蓮宗）、一遍（時宗）などが輩出して、いわゆる鎌倉新仏教がさかんになった。一方で、古い歴史を誇る南都（奈良）の仏教にも革新運動が興った。唐招提寺中興の祖とあがめられる覚盛 上人は、すたれていた戒律の復興を唱え、釈迦の教えに帰ろうとした。そのため、唐招提寺にある鑑真和上がもたらした舍利は、釈迦の分身として手厚い信仰の対象となった。覚盛上人は1244年、唐招提寺に入り、律を講じ、舍利会を行い、鑑真和上の再来とたたえられたほか、多数の著作や戒律復興などを願う写経をのこしている。

作品名	時代	指定	出品番号
金銅華鬘 <small>こんどう けまん</small>	二枚 江戸時代		64
金銅装葵紋居箱 <small>こんどうそうあおいもんすえぼこ</small>	二合 江戸時代		63
鑑真和上袈裟入時絵箱 <small>かんじんわじしょうけさいりまきえぼこ</small>	江戸時代		67
鑑真和上受持鉢 <small>かんじんわじしょうじゅじはち</small>	奈良時代		62
七条袈裟（慶円和尚奉納） <small>しちじょうげさ</small>	南北朝時代		65

作品名	時代	指定	出品番号
にじゅうごじょうげさ二十五条袈裟（伝覚盛所用）	鎌倉時代		66
ちゅうどうみつぐそく 鑄銅三具足			57
しよくだい 燭台	明時代	重要文化財	57-1
こうろ 香炉	明時代	重要文化財	57-2
けびょう 華瓶	明時代	重要文化財	57-3
でんしゃかによらいごぞう 伝釈迦如来坐像	奈良末・平安時代	重要文化財	55
でんたほうによらいごぞう 伝多宝如来坐像	平安時代	重要文化財	56
ほうえししようぐるいもくせいえごろろ 法会所要具類（木製柄香炉）	三口 平安時代	重要文化財	18
しゃかによらいけさいりまきえぼこ 釈迦如来袈裟入蒔絵箱	江戸時代		68
まえづくえ 前机（向机）	江戸時代		69
わきづくえ 脇机	二基 江戸時代		70
じょうつち 静・植	二基 江戸時代		71
かくじょうしやうにんごぞう 覚盛上人坐像	室町時代	重要文化財	42
りつさんそぞう 律三祖像			61
どうせんりっし 道宣律師	江戸時代		61-1
かんじんわじょう 鑑真和上	江戸時代		61-2
かんじょうりっし 元照律師	江戸時代		61-3
かくじょうがんぎょうほうきよういんだらにきょう 覚盛願経 宝篋印陀羅尼経	鎌倉時代	重要文化財	45
かくじょうがんぎょうゆいしきさんじゅうじゅだいじょうひやくほう 覚盛願経 唯識三十頌／大乘百法	鎌倉時代	重要文化財	46
みょうもんろんはんしゃんぎょう 明門論／般若心経			
かくじょうがんぎょうほんもうきょう 覚盛願経 梵網経	二帖 鎌倉時代	重要文化財	59
かくじょうがんぎょうしふんかいほん 覚盛願経 四分戒本	鎌倉時代	重要文化財	58
かくじょうがんぎょうほけきょう 覚盛願経 法華経	十帖 鎌倉時代	重要文化財	60
とうしょうだいじほんはんぎ 唐招提寺版版本（覚盛撰述）			54
つうべつにじしゅう 通別二受鈔（大）	三枚 室町時代		54-1
しんかくさじようもん 新学作持要文（小）	二枚 室町時代		54-2

金堂－平成の大修理

8世紀後半に建てられた金堂（国宝）は、明治時代に一度修復されている。外観は問題なく見えるが、構造的な原因による変形があった。阪神大震災（1995年）によって、それは見逃せない問題として認識され、調査工事を1998年に行い、解体修理工事を2000年に開始した。修理の目的は、木組みの変形防止と耐震性能の向上にある。

作品名	時代	指定	出品番号
こんどう でんじょうしりんいた 金堂の天井支輪板	四枚 奈良時代	国宝	49
こんどう のきしりんいた 金堂の軒支輪板			50
のきしりんいた 軒支輪板三番	江戸時代	国宝	50-1
のきしりんいた 軒支輪板四番	江戸時代	国宝	50-2
のきしりんいた 軒支輪板七番	江戸時代	国宝	50-3
こんどうしやうかわら 金堂所用瓦			51
ひらがわら 平瓦	奈良時代	国宝	51-1
まるがわら 丸瓦	奈良時代	国宝	51-2
ひらがわら 平瓦	奈良時代	国宝	51-3
ひらがわら 平瓦	奈良時代	国宝	51-4

作品名	時代	指定	出品番号
ひらがわら 平瓦	鎌倉時代	国宝	51-5
まるがわら 丸瓦	鎌倉時代	国宝	51-6
ひらがわら 平瓦	室町時代	国宝	51-7
まるがわら 丸瓦	室町時代	国宝	51-8
とうしょうだいいりつじ [唐招提律寺] めいのきまるがわら 銘軒丸瓦	江戸時代	国宝	51-9
とうしょうだいいりつじ [唐招提律寺] めいのきひらがわら 銘軒平瓦	江戸時代	国宝	51-10
ひらがわら 平瓦	江戸時代	国宝	51-11
まるがわら 丸瓦	江戸時代	国宝	51-12

鑑真和上略年譜

西暦	和暦	年齢	事項	
688	持統	2	1	揚州江陽県に生まれる。
701	大宝	元	14	揚州大雲寺の智満を師として出家する。
705	慶雲	2	18	道岸より菩薩戒を受ける。
707		4	20	洛陽、長安へ上る。
708	和銅	元	21	長安實際寺で、弘景より具足戒を受ける。
713		6	26	はじめて律を講じる。
733	天平	5	46	この頃中国中部あたりで律僧の第一人者となり、「授戒の大師」として僧俗より仰がれる。
742		14	55	日本僧・栄叡、普照、揚州大明寺に鑑真和上を訪問。鑑真和上、渡日を受諾。
743		15	56	如海の密告により、第1次渡航失敗。同年、第2次渡航を企てるが、風波のため船が難破し、失敗。
744		16	57	再び出帆するが、遭難。明州阿育王寺に収容される。越州、杭州、湖州、宣州を巡遊するうち、栄叡捕縛され、第3次渡航も挫折。渡航を準備して福州へ赴く途中、靈祐の密告によって止められ、揚州に護送、第4次渡航も失敗。
748		20	61	出帆するが、風波にあい海南島に漂着し、第5次渡航も失敗。
749	天平勝宝元		62	海南島の馮崇債の庇護を受け振州大雲寺を修築。さらに崖州開元寺を再興。その後諸州を巡礼しながら揚州に向かう。途中、栄叡死す。鑑真和上失明。高弟の祥彦も没する。

753		5	66	日本使節の藤原清河、大伴古麻呂、吉備真備ら鑑真和上に渡日を懇請。11月16日、遣唐使船で蘇州黄泗浦出帆。12月20日、日本（薩摩国阿多郡秋妻屋浦）に到着。26日、太宰府に入る。2月4日、平城京に到着。3月、授戒伝律一任の詔を受ける。4月、東大寺大仏殿前で聖武天皇以下、四百四十余人に授戒。東大寺戒壇院建立。良弁とともに大僧都に任ぜられる。備前国壘田一百町を東大寺唐禅院に施して十万衆僧の供養料とする。
758		2	71	大僧都の任を止められ、大和上の称号を賜る。
759		3	72	故新田部親王の旧宅を賜り、8月1日、唐招提寺を創建する。
761		5	74	下野薬師寺、筑紫観世音寺に戒壇設立。
763		7	76	春、弟子の忍基、和上遷化の近いことを悟り、諸弟子らを率いて和上肖像をつくる。5月6日、入滅。



関連事業のごあんない

記念講演会

- 6月24日（土）
 - 13：30～14：00 「共結来縁」（ともに来縁を結ばん）松浦俊海師（律宗総本山 唐招提寺長老）
 - 14：00～15：00 「鑑真和上と唐招提寺の仏像」 鷲塚泰光氏（総監修、前奈良国立博物館長）
- 7月23日（日）
 - 13：30～15：00 「鑑真和上将来の舍利をめぐって」 阪田宗彦氏（監修、大阪大谷大学大学院文学研究科文化財学専攻教授）

- *いずれも北海道立近代美術館講堂（定員240名）にて開催。聴講無料。30分前に開場します。

唐招提寺の僧侶によるギャラリー・トーク

唐招提寺の僧侶の方々をお招きし、展示品の解説をまじえながら、戒律や授戒の儀式についてわかりやすくお話をいただきます。

- 7月6日（木） 11：00～／14：30～
- 7月16日（日） 14：30～
- 7月26日（水） 11：00～／14：30～
- 8月16日（水） 14：30～

お話：唐招提寺 執事 西山明彦師・石田太一師 録事 久保孝学師 ほか

- *各回30分程度。いずれも「鑑真和上展」会場内（特別展示室）にて開催。聴講には特別展観覧券が必要です。

北海道立近代美術館

〒060-0001 札幌市中央区北1条西17丁目 TEL 011-644-6881